２【保護者：学校教育についてのアンケート】

このアンケートはWebで実施し、回答していただきました。

（１）集計結果

①　学校教育への評価　　＜Ａ：そう思う　Ｂ：だいたいそう思う　Ｃ：あまりそう思わない　Ｄ：そう思わない＞

番号	学校の教育活動への評価内容	Ａ＋Ｂ（数値は%）	
		Ｒ６	Ｒ７
１	学校は、教育目標や教育方針等をわかりやすく知らせている。	９８	９７
２	学校は、授業や教育活動等を進んで保護者や地域に公開しようと努めている。	１００	９６
３	学校は、子供たちに基礎学力を身につけようと努めるとともに、家庭での学習習慣（宿題をきちんとするなど）を定着させるために取り組んでいる。	１００	９３
４	学校は、可能な限り、豊かな体験活動を通して、ふるさとを愛し、誇りをもたせる教育活動に取り組んでいる。	９８	９６
５	学校は、子供が進んで読書活動に取り組めるように環境を整備したり、読書指導に取り組んだりしている。	８９	９２
６	学校は、生活指導（あいさつ、正しい言葉づかい、早寝・早起き、朝ごはん等）に取り組んでいる。	９４	９７
７	学校は、いじめ防止や友達となかよく助け合って生活しようとする「なかまづくり」に取り組んでいる。	９３	９８
８	学校は、安全（交通安全、事故防止、不審者対策など）に対する意識を高める取組を計画的にしている。	１００	９８
９	学校は、環境教育や清掃活動等を通して学校を美しくしようと努力している。	１００	９７
１０	学校は、学校だより・学級だよりや個人懇談、ホームページなどを通じて、子供たちの学習や生活の様子等を知らせている。	１００	９８

②　保護者の方の振り返り　　＜Ａ：そう思う　Ｂ：だいたいそう思う　Ｃ：あまりそう思わない　Ｄ：そう思わない＞

番号	チェック内容	Ａ＋Ｂ	
		Ｒ６	Ｒ７
１	学校からのお知らせ等は、ていねいに読んでいる。	９８	９９
２	学校行事、ＰＴＡ活動等には積極的に参加し、協力しようと努めている。	９３	９２
３	子供のことや心配なことがあるときは、担任や管理職に相談している。	９６	９７
４	学校や友達の話を聞く等、お子さまとのコミュニケーションを積極的に取り、子供の学習状況や生活状況を把握するように努めている。	９８	９３
５	家庭でのしつけ（あいさつ、言葉づかい、食習慣など）に積極的に取り組んでいる。	８９	９９

※集計右側の数値は、A「そう思う」 B「だいたいそう思う」の割合の合計です。

○　ほとんどの項目において、９５％を上回る高い評価をいただきました。昨年の１００％からは少しポイントは減りましたが、９５％を上回る高い評価となったのは１０項目中８項目でした。「学校教育への評価」で、昨年からポイントが上がった項目は次の３つでした。

5「学校は、子供が進んで読書活動に取り組めるように環境を整備したり、読書指導に取り組んだりしている。」
6「学校は、生活指導（あいさつ、正しい言葉づかい、早寝・早起き、朝ごはん等）に取り組んでいる。」
7「学校は、いじめ防止や友達となかよく助け合って生活しようとする「なかまづくり」に取り組んでいる。」

学校評価アンケートで、多くの項目で肯定的な評価をいただき、「安心して子どもを通わせることができる学校である」と受け止めていただいていることが分かりました。学校と家庭との信頼関係が築かれていることを大変ありがたく思います。

次のページでは、学校教育目標「心豊かで、たくましい子どもの育成～自ら気づき、考え、実行できる子どもの育成～」とアンケート結果を照らし合わせて分析します。

この教育目標が示す「自立」「思考力」「心の豊かさ」を育むためには、学校の教育活動や家庭との連携が重要です。いくつかの評価項目をあげながら、どのような改善策が必要か考えていきます。

（２）結果からの考察

1.「心豊かな子ども」の育成について

「いじめ防止と仲間づくり」および「読書活動」において、高い肯定的評価をいただきました。これらは、他者への思いやりや豊かな感性を育む「心の教育」の基盤が整っていることを示しています。豊かな心の育成に向けた環境づくりは、保護者の皆さまに強く実感していただいていると考えます。

2.「たくましい子ども」の育成について

「基礎学力の定着」や「規則正しい生活習慣」についても、多くのご家庭から肯定的な回答を得ています。自律して生活し、学ぶ基盤を整えることは、困難に立ち向かう「たくましさ」の源泉となります。知・徳・体のバランスがとれた「たくましさ」の土台作りが着実に進んできていると考えます。

3.「自ら気づき、考え、実行できる」主体性の育成について

保護者自身の参画意識において、肯定的な回答の一方で「もっと協力したいが、できていない」という趣旨の回答が散見されました。子どもが、「自ら実行する」姿を学び、主体性を育むためには、教職員をはじめ保護者や地域が主体的に学校に関わる姿を見せることも、重要な教育環境の一部であると考えます。

4. 今後の具体的な方策について

学校教育目標のさらなる具現化向け、以下の3点に重点的に取り組みます。

(1)「気づき」を促す安全教育の展開

自由記述でいただいた通学路の安全に関する懸念に対し、単に大人が対策を講じるだけでなく、子ども自身が「どこが危険か自ら気づき、回避策を考える」ための安全教室や避難訓練、地域を歩くフィールドワークを実施していきます。

(2)学習成果を可視化する取組の推進

アンケート結果では、「学校は頑張っている」という評価ですが、「子どもが伸びている実感」までは十分に届いていないことが読み取れます。学習習慣や読書活動などの成果は、努力や過程が見えにくく、保護者の方には実感として伝わりにくい側面があります。そこで必要となるのが、「学習成果の可視化（子どもの成長を見える形にすること）」だと考えます。評価を結果だけでなく成長の変化として示し、子どもたちが自分の成長を理解できるようにするとともに、児童自身の振り返りを保護者の方と共有することで、学びの手応えを可視化する取組を進めます。

(3)「考え、実行する」学習機会の拡充

基礎学力の定着から一歩進み、学んだ知識を使って課題を解決する「探究型学習」を推進します。特に、地域での活動や体験活動を通じて、子どもたちが企画段階から参画できる場面を増やし、成功体験を積ませることで、「自立した学習者」としてのたくましさを育みます。

(4)学校教育目標の共有と「共育」の推進

本校の学校教育目標である「自ら気づき、考え、実行できる子」を育てるためには、家庭・地域との連携が不可欠です。学校だより・学級だより・ホームページ等で、単に行事や活動の報告をするだけでなく、「この活動が子どもの主体性をどう引き出したか・高めたか」というプロセスに焦点をあてて発信します。これにより、保護者の皆さまと教育目標をより深く共有し、学校参画への意識を高めていきます。

今回の評価結果から、本校の教育活動に対する高い信頼とともに、保護者の皆さまにあたたかく支えられていることを再確認いたしました。一方で、より分かりやすい情報発信など、具体的な課題も見えてきました。そして、教育目標の達成に向けた「次の一手」を考えるためのヒントをいただきました。

「自ら気づき、考え、実行できる」子どもを育てるためには、学校が柔軟に変化し、実行し続ける姿を見せることが肝要です。保護者の皆さまからいただいた意見を真摯に受けとめ、子どもたちが安心して学び、健やかに成長することができる学校づくりに邁進していきます。

自由記述の欄に、学校の取組についてのたくさんの貴重なご意見を寄せていただきました。ご意見からは、保護者の皆さまが、学校の取組をあたたかく見守り、ともに考え、進もうとしてくださっているお気持が伝わり、とても心強くありがたく感じております。

皆さまからいただいた評価やご意見を真摯に受け止め、今後の教育活動や指導に生かしてまいります。これからも、変わらぬご支援とご協力を、どうぞよろしくお願いいたします。